



2024年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月13日

上場会社名 株式会社サニーサイドアップグループ 上場取引所 東
コード番号 2180 URL https://ssug.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 次原 悦子
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理部長 (氏名) 大竹 貴也 TEL 03-6894-3233
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 2024年3月11日
四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
四半期決算説明会開催の有無： 有 (個人投資家向け)

百万円未満切捨て

1. 2024年6月期第2四半期の連結業績（2023年7月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|--------|-------|------|------|-------|------|----------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2024年6月期第2四半期 | 9,179 | △15.2 | 997 | 17.1 | 1,004 | 12.7 | 601 | 15.5 |
| 2023年6月期第2四半期 | 10,828 | 24.3 | 851 | 74.7 | 891 | △0.9 | 520 | △1.6 |

(注) 包括利益 2024年6月期第2四半期 525百万円 (△5.2%) 2023年6月期第2四半期 554百万円 (1.7%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2024年6月期第2四半期 | 40.29 | 40.16 |
| 2023年6月期第2四半期 | 34.86 | - |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2024年6月期第2四半期 | 9,916 | 4,024 | 39.0 |
| 2023年6月期 | 8,595 | 3,728 | 41.4 |

(参考) 自己資本 2024年6月期第2四半期 3,863百万円 2023年6月期 3,561百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年6月期 | - | 0.00 | - | 15.00 | 15.00 |
| 2024年6月期 | - | 5.00 | - | - | - |
| 2024年6月期（予想） | - | - | - | 15.00 | 20.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2024年6月期の連結業績予想（2023年7月1日～2024年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|------|-------|------|-------|------|---------------------|-----|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 21,000 | 10.8 | 1,560 | 20.3 | 1,540 | 15.3 | 930 | 5.1 | 62.35 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|------------|-------------|------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2024年6月期2Q | 15,197,400株 | 2023年6月期 | 15,191,600株 |
| ② 期末自己株式数 | 2024年6月期2Q | 277,456株 | 2023年6月期 | 277,456株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2024年6月期2Q | 14,915,367株 | 2023年6月期2Q | 14,927,361株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意点)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当資料は2024年2月13日（火）に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

(決算説明会について)

当社は、2024年2月17日（土）に個人投資家向け説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 4 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 5 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 9 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 10 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 12 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 12 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 12 |
| (当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) | 12 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 12 |
| (セグメント情報) | 12 |
| (収益認識関係) | 14 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2023年7月1日～2023年12月31日)における当社グループは、PRを軸に、グループシナジーを創出しながら、コミュニケーションに係るソリューションを幅広く提供してまいりました。

中長期的な企業価値の向上を目指す当社グループは、成長の加速と経営効率改善の双方を実現するため、㈱サニーサイドアップを存続会社とする連結子会社3社間の吸収合併を実施し、2023年7月1日を効力発生日として㈱スクランブルを、9月1日を効力発生日として㈱ワイズインテグレーションを合併しました。合併後の㈱サニーサイドアップは、組織改編と部門間の連携強化を目的とするオフィス改装を行い、統合効果の最大化に向けた活動を本格化させました。また、中長期経営方針に掲げる「人的資本経営ガイドライン」に沿って、①女性活躍の推進、②教育投資の拡充、③エンゲージメント・スコアの向上に取り組むなか、当社グループの多様なライフスタイルを支える独自の福利厚生制度や女性の社会的課題の解決を目指す啓蒙活動が評価され、東京都が主催する「令和5年度東京都女性活躍推進大賞」の大賞を受賞しました。

当社グループでは、成長への事業ポートフォリオ構築に向けて、ブランドコミュニケーション事業を基幹事業と位置づけ、その強化を図りました。活発化する企業のマーケティング活動も追い風となり、コスメ・ファッション、食品・飲料、商業施設・ホテルの開業に係るPRの受注が堅調に推移しました。また、円安等を背景に日本進出を企図するグローバル企業からの引き合いが続くなか、これまでの実績や海外PRエージェンシーとの提携が強みとなり、コスメ等の大型案件の受注に繋がりました。施設関連のPRにつきましては、都心の大型複合施設の開業に加えて、インパウンド需要の広がり背景に、東京・大阪のみならず、札幌・福岡等の広域中心都市でもホテルの開業が相次ぎ、受注機会が拡大しました。さらに、官公庁や地方自治体とともに地域の観光や文化振興支援等に携わってきた知見を活かし、㈱サニーサイドアップで観光産業や地域活性化に関するコンサルティング業務を行う「地方創生ユニット」を発足し、同領域の育成を図りました。

ブランドコミュニケーション事業に注力しながら、中長期的な成長を促す周辺事業の育成にも着手し、2023年9月、XR技術を用いて新たなブランドコミュニケーションを実現する「ブランドテック」のサービス提供を開始するとともに、長期的視点で取り組む「サステナブルテック」の第一歩として、女性のウェルビーイング領域に特化したファンドに出資しました。また、経営の更なる効率化に向けて、ビジネスディベロップメント事業に含まれていた㈱アジャイルの株式を2023年7月に譲渡しました。

売上高につきましては、フードブランディング事業で伸長が続いたものの、前期に連結売上高を牽引した大手コンビニエンスストア向けの販促施策や商品企画の売上高が第1四半期連結会計期間に大きく減少し、グループ全体で減収となりました。利益につきましては、ブランドコミュニケーション事業で原価率の高い販促施策・商品企画の売上構成比が低下するなか、統合効果が顕在化し、収益性の高いPRの利益改善が進んだことから、増益となりました。なお、イベント等へ出資してPRを手掛ける連結子会社が出資金評価損101百万円を特別損失に計上しましたが、営業利益が増加し、各段階利益で増益を確保しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

| | | |
|------------------|----------|----------------|
| 売上高 | 9,179百万円 | (前年同期比 15.2%減) |
| 営業利益 | 997百万円 | (前年同期比 17.1%増) |
| 経常利益 | 1,004百万円 | (前年同期比 12.7%増) |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 601百万円 | (前年同期比 15.5%増) |

当社グループは、連結子会社3社間の吸収合併を契機に、基幹事業を「ブランドコミュニケーション事業」として再定義し、資源配分に係る意思決定、業績管理及び統合効果等の評価を適切に行うため、「2. (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」に記載の通り、報告セグメントの変更等を行っております。以下の前年同期比につきましては、前年実績を変更後の新セグメントに組み替えて表示しております。

セグメント別の構成及び業績は次の通りです。

| 構成子会社 | セグメント変更前 | セグメント変更後 |
|--------------------------|----------------------|------------------|
| ㈱サニーサイドアップ(コンテンツ関連部門を除く) | ①マーケティング&コミュニケーション事業 | ①ブランドコミュニケーション事業 |
| ㈱クムナムエンターテインメント | | |
| ㈱ステディスタディ | | |
| ㈱スクランブル(注1) | | |
| ㈱エアサイド | | |
| ㈱ワイズインテグレーション(注2) | ②セールスアクティベーション事業 | |
| ㈱サニーサイドアップ(コンテンツ関連部門) | | |
| ㈱フライパン | ③フードブランディング事業 | ②フードブランディング事業 |
| SUNNY SIDE UP KOREA, INC | | |
| ㈱グッドアンドカンパニー | ④ビジネスディベロップメント事業 | ③ビジネスディベロップメント事業 |
| ㈱サニーサイドエックス(注3) | | |

- (注) 1. 2023年7月1日を効力発生日として、㈱サニーサイドアップに吸収合併しております。
 2. 2023年9月1日を効力発生日として、㈱サニーサイドアップに吸収合併しております。
 3. 2023年7月1日付で㈱サニーサイドアップパートナーズより商号変更しております。

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失

(単位：百万円)

| | | 2023年6月期 第2四半期累計 | 2024年6月期 第2四半期累計 | | |
|----------------------|-----|---------------------|---------------------|----------|-----------------------------|
| セグメント変更前 | | (注) | | セグメント変更後 | |
| ①マーケティング&コミュニケーション事業 | 売上高 | 3,760 | 9,191 | 7,444 | 売上高 ①ブランド コミュニケーション事業 |
| | 利益 | 908 | | | |
| ②セールスアクティベーション事業 | 売上高 | 5,431 | 1,228 | 1,463 | 利益 |
| | 利益 | 324 | | | |
| ③フードブランディング事業 | 売上高 | 1,361 | 1,361 | 1,648 | 売上高 ②フードブランディング事業 |
| | 利益 | 19 | 19 | 72 | |
| ④ビジネスディベロップメント事業 | 売上高 | 275 | 275 | 86 | 売上高 ③ビジネス ディベロップメント事業 |
| | 利益 | 22 | 22 | △3 | |

(注) 前第2四半期連結累計期間の実績を変更後のセグメントに組み替えて表示しております。

①ブランドコミュニケーション事業

従来のマーケティング&コミュニケーション事業とセールスアクティベーション事業を統合した当事業では、PRを軸に、プロモーション、ブランディング、スポーツマーケティング等、マーケティングやコミュニケーションに係る多様なソリューションに加えて、店頭等の消費者とのコンタクトポイントで購買・成約の意思決定を促すためのソリューションを提供しております。

㈱サニーサイドアップでは、クライアントニーズにきめ細かく対応した企画力とメディアリレーションを強みとし、特定の業種に限定することなく、国内外のクライアントの商品・サービス、施設等のPRを手掛けております。同社では、㈱スクランブルが展開していたインフルエンサーとYouTube等のSNSを組み合わせたマーケティングサービスを取り込み、ソリューションの幅を広げております。また、コンテンツ関連部門では、タレントやキャラクター等のIP(知的財産)を活用したコンテンツ制作及び販促施策を手掛けており、吸収した㈱ワイズインテグレーションの商品キャンペーンの企画及びグッズ制作、雑貨の商品企画やOEMの機能・ノウハウを移管しております。

㈱クムナムエンターテインメントでは、強力なキャスティングネットワークと企画力を強みとして、日本及び韓国の人気アーティスト、有名プロスポーツ選手等を起用したブランディングやコンテンツ開発を手掛けております。㈱エアサイドでは、高いクリエイティビティとエンターテインメント業界とのリレーションを武器に、人気アーティストを起用したCMをメディアに紹介するPR等を手掛けています。㈱ステディスタディでは、ファッション・ライフスタイルブランドに関する専門的な知見やキャスティング力を活用し、PRやイベントの企画・制作・運営、コンサルティングを提供しています。

当第2四半期連結累計期間におきましては、㈱サニーサイドアップを中心にクライアントリレーションの強化やサービスの高付加価値化に向けて、PR提案時にインフルエンサーマーケティング等のサービスを追加提案するなど、クロスセルやアップセルに取り組んだほか、生産性を改善するため、低収益案件の見直しや稼働体制の適正化を図りました。また、教育投資拡充の一環として、社内教育プログラム「SUNNY UNIVERSITY」を定期開講し、経営陣や外部専門家を講師に招聘した実践的なマーケティング講座には延べ800名以上が参加しました。これらの結果、リテナー契約の獲得・更新が進むとともに、クライアント当たりの売上高も増加しました。

当事業では、PRの受注が拡大しましたが、第1四半期連結会計期間の大手コンビニエンスストア向け販促施策や商品企画の売上減少が響き、事業全体で減収となりました。利益につきましては、原価率の高い販促施策・商品企画の売上構成比が低下するなか、収益性の高いPRの改善が進み、増益となりました。

これらの結果、当事業の当第2四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

| | |
|---------|------------------------|
| 売上高 | 7,444百万円（前年同期比 19.0%減） |
| セグメント利益 | 1,463百万円（前年同期比 19.1%増） |

②フードブランディング事業

当事業では、オーストラリア・シドニー発のオールデイダイニング「bills」の国内におけるブランディング、ライセンスビジネス及び韓国におけるライセンス管理と店舗運営を行っております。

国内で直営7店舗、韓国で直営2店舗を展開する当事業では、当第2四半期連結累計期間に出退店はないものの、七里ヶ浜店（神奈川県鎌倉市）がリニューアルのため、2023年11月下旬より17日間休業しました。2022年5月より約7か月間休業し、同年12月にリニューアルオープンした横浜赤レンガ倉庫店（神奈川県横浜市中区）は、前年の休業の反動とリニューアル効果により、売上高が大幅に伸長しました。

当事業では、年2回のメニュー改編で新たなテーマを訴求するなか、秋冬メニューにスパイスやハーブを使った世界の料理を導入し、集客及び客単価の上昇に繋がりました。横浜赤レンガ倉庫店のほか、銀座店及び表参道店、インバウンド需要を取り込んだ大阪店及び福岡店も好調に推移し、国内を中心に収益改善が進みました。

これらの結果、当事業の当第2四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

| | |
|---------|------------------------|
| 売上高 | 1,648百万円（前年同期比 21.1%増） |
| セグメント利益 | 72百万円（前年同期比 269.9%増） |

③ビジネスディベロップメント事業

当事業は、新規事業の開発・創出を通じてグループの事業領域を拡充する位置づけにあり、セグメント特性上、費用が先行する傾向にあります。

㈱グッドアンドカンパニーでは主に、ウェルビーイングや女性活躍推進等、社会課題の解決に資するコミュニケーションサービスを提供しております。㈱サニーサイドエクスでは、従来の商業施設及び建物の企画、開発、管理運営等に加え、2023年9月に自社内に設置したXRスタジオで最先端のデジタル技術を駆使したXR映像を制作し、新たなソリューションの提供を開始しました。同社では、ブランドコミュニケーション事業と連携して提案を行うほか、受注獲得に向けて営業体制を強化しました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、㈱アジャイルが連結対象外となり売上高が減少したことに加え、XR事業の立ち上げ費用が影響し、事業全体で減収減益となりました。

これらの結果、当事業の当第2四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

| | |
|---------|---------------------|
| 売上高 | 86百万円（前年同期比 68.4%減） |
| セグメント損失 | △3百万円（前年同期実績 22百万円） |

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べて1,321百万円増加し、9,916百万円となりました。資産の内訳につきましては、流動資産が1,510百万円の増加により8,133百万円に、固定資産が189百万円の減少により1,783百万円となりました。流動資産増加の主な要因は、現金及び預金が671百万円減少したものの、売掛金が1,707百万円、未成業務支出金が341百万円それぞれ増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べて1,024百万円増加し、5,891百万円となりました。負債の内訳につきましては、流動負債が1,091百万円の増加により5,192百万円に、固定負債が66百万円の減少により699百万円となりました。流動負債増加の主な要因は、短期借入金が80百万円、1年内返済予定の長期借入金が46百万円それぞれ減少したものの、買掛金が1,526百万円増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べて296百万円増加し、4,024百万円

となりました。これらの結果、自己資本比率は39.0%となり、前連結会計年度末の41.4%より低下しました。

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べて671百万円減少し、2,403百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べて249百万円支出が減少し、181百万円の支出となりました。これは主に、前年同期と比べて法人税等の支払額として279百万円支出が減少したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べて8百万円支出が減少し、110百万円の支出となりました。これは主に、前年同期と比べて有形固定資産の取得による支出が38百万円増加したものの、出資金の払込による支出が16百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出が22百万円、並びに敷金及び保証金の差入による支出が5百万円それぞれ減少したことによるものです。

これらの結果、フリー・キャッシュ・フローは、前年同期と比べて258百万円支出が減少し、291百万円の支出となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、391百万円の支出（前年同期は797百万円の資金の増加）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出として106百万円、配当金の支払額として222百万円によるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月期の連結業績予想につきましては、2023年8月14日に公表いたしました連結業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2023年6月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (2023年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,089,935 | 2,418,919 |
| 受取手形 | 22,093 | 1,827 |
| 売掛金 | 2,620,516 | 4,328,056 |
| 商品及び製品 | 4,573 | 6,476 |
| 未成業務支出金 | 551,986 | 893,400 |
| 原材料及び貯蔵品 | 25,083 | 32,949 |
| その他 | 314,635 | 462,747 |
| 貸倒引当金 | △6,243 | △11,151 |
| 流動資産合計 | 6,622,581 | 8,133,225 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| その他(純額) | 362,309 | 424,949 |
| 有形固定資産合計 | 362,309 | 424,949 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 276,121 | 255,411 |
| その他 | 24,231 | 26,122 |
| 無形固定資産合計 | 300,352 | 281,534 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 1,355,869 | 1,133,787 |
| 貸倒引当金 | △45,713 | △57,063 |
| 投資その他の資産合計 | 1,310,155 | 1,076,723 |
| 固定資産合計 | 1,972,817 | 1,783,207 |
| 資産合計 | 8,595,398 | 9,916,433 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 1,989,016 | 3,515,020 |
| 短期借入金 | 586,000 | 506,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 181,491 | 135,192 |
| 未払法人税等 | 181,173 | 300,964 |
| 賞与引当金 | - | 111,000 |
| 役員賞与引当金 | 153,255 | - |
| 契約負債 | 212,403 | 294,005 |
| その他 | 797,646 | 330,558 |
| 流動負債合計 | 4,100,987 | 5,192,741 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 411,109 | 351,257 |
| 資産除去債務 | 99,107 | 99,744 |
| その他 | 255,919 | 248,145 |
| 固定負債合計 | 766,136 | 699,148 |
| 負債合計 | 4,867,123 | 5,891,889 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2023年6月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (2023年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 547,764 | 550,458 |
| 資本剰余金 | 696,127 | 698,821 |
| 利益剰余金 | 2,247,658 | 2,625,015 |
| 自己株式 | △130,456 | △130,456 |
| 株主資本合計 | 3,361,094 | 3,743,839 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 222,920 | 143,390 |
| 繰延ヘッジ損益 | 164 | △1,440 |
| 為替換算調整勘定 | △22,960 | △22,590 |
| その他の包括利益累計額合計 | 200,124 | 119,359 |
| 新株予約権 | 143,559 | 132,874 |
| 非支配株主持分 | 23,496 | 28,469 |
| 純資産合計 | 3,728,275 | 4,024,543 |
| 負債純資産合計 | 8,595,398 | 9,916,433 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日) |
|---------------------------------------|--|--|
| 売上高 | 10,828,107 | 9,179,480 |
| 売上原価 | 8,664,660 | 6,931,795 |
| 売上総利益 | 2,163,447 | 2,247,685 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,311,548 | 1,249,959 |
| 営業利益 | 851,899 | 997,726 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 71 | 83 |
| 受取配当金 | 441 | - |
| 為替差益 | - | 17,487 |
| 業務受託手数料 | 10,072 | 9,999 |
| 助成金収入 | 59,706 | - |
| その他 | 7,979 | 5,934 |
| 営業外収益合計 | 78,271 | 33,505 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 4,775 | 2,883 |
| 持分法による投資損失 | 8,757 | 2,221 |
| 為替差損 | 15,976 | - |
| 匿名組合損益分配額 | - | 2,388 |
| 過年度関税等 | - | 9,535 |
| 貸倒引当金繰入額 | - | 8,500 |
| その他 | 9,527 | 1,403 |
| 営業外費用合計 | 39,036 | 26,933 |
| 経常利益 | 891,134 | 1,004,297 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 1,636 | 35 |
| 子会社株式売却益 | - | 37,880 |
| 新株予約権戻入益 | - | 12,288 |
| 特別利益合計 | 1,636 | 50,203 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 0 | - |
| 子会社出資金売却損 | 29,342 | - |
| 出資金評価損 | 34,519 | 101,171 |
| 投資有価証券評価損 | - | 2,014 |
| 特別損失合計 | 63,862 | 103,185 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 828,908 | 951,315 |
| 法人税等 | 317,095 | 345,273 |
| 四半期純利益 | 511,813 | 606,042 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △8,611 | 4,973 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 520,425 | 601,069 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 511,813 | 606,042 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 201 | △79,529 |
| 繰延ヘッジ損益 | △4,859 | △1,605 |
| 為替換算調整勘定 | 47,035 | 370 |
| その他の包括利益合計 | 42,378 | △80,764 |
| 四半期包括利益 | 554,192 | 525,277 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 562,803 | 520,304 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △8,611 | 4,973 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日) |
|--------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 828,908 | 951,315 |
| 減価償却費 | 39,566 | 47,815 |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △16,834 | 16,258 |
| のれん償却額 | 20,709 | 20,709 |
| 役員賞与引当金の増減額 (△は減少) | △129,071 | △153,255 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 168,000 | 111,000 |
| 受取利息及び受取配当金 | △513 | △83 |
| 支払利息 | 4,775 | 2,883 |
| 為替差損益 (△は益) | △9,278 | △12,036 |
| 助成金収入 | △59,706 | - |
| 持分法による投資損益 (△は益) | 8,757 | 2,221 |
| 子会社出資金売却損益 (△は益) | 29,342 | - |
| 業務受託手数料 | △10,072 | △9,999 |
| 固定資産売却益 | △1,636 | △35 |
| 固定資産除却損 | 0 | - |
| 株式報酬費用 | 25,688 | 2,717 |
| 子会社株式売却損益 (△は益) | - | △37,880 |
| 出資金評価損 | 34,519 | 101,171 |
| 匿名組合損益分配額 (△は益) | 4,117 | 2,388 |
| 投資有価証券評価損益 (△は益) | - | 2,014 |
| 債権譲渡損 | 421 | - |
| 新株予約権戻入益 | - | △12,288 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △2,140,043 | △1,770,849 |
| 棚卸資産の増減額 (△は増加) | △199,654 | △351,410 |
| 前渡金の増減額 (△は増加) | △821,325 | △220,485 |
| その他の資産の増減額 (△は増加) | 97,667 | 17,434 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | 1,733,700 | 1,578,271 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | △145,141 | △42,841 |
| 未払消費税等の増減額 (△は減少) | △46,912 | △124,688 |
| 契約負債の増減額 (△は減少) | 760,435 | 81,601 |
| その他の負債の増減額 (△は減少) | △232,844 | △258,062 |
| 小計 | △56,423 | △56,115 |
| 利息及び配当金の受取額 | 138 | 83 |
| 利息の支払額 | △5,709 | △2,974 |
| 業務受託手数料の受取額 | 10,072 | 9,999 |
| 助成金の受取額 | 59,706 | - |
| 法人税等の支払額 | △460,981 | △181,115 |
| 法人税等の還付額 | 21,768 | 48,479 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △431,427 | △181,642 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △43,484 | △82,067 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 1,636 | 35 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △12,668 | △12,575 |
| 出資金の払込による支出 | △26,500 | △10,010 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出 | △33,617 | △10,746 |
| 出資金の分配による収入 | - | 4,247 |
| 貸付金の回収による収入 | 934 | 934 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △5,398 | - |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 323 | 73 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △118,774 | △110,109 |

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日) |
|-----------------------|--|--|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | 1,314,295 | △64,159 |
| 長期借入金の返済による支出 | △234,990 | △106,150 |
| 配当金の支払額 | △179,980 | △222,749 |
| リース債務の返済による支出 | △1,834 | △2,830 |
| 自己株式の取得による支出 | △100,007 | - |
| 新株予約権の発行による収入 | - | 277 |
| 新株予約権の行使による株式の発行による収入 | - | 3,996 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 797,481 | △391,616 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 11,128 | 12,351 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 258,409 | △671,016 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,214,372 | 3,074,135 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 3,472,782 | 2,403,119 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社サニーサイドエックスが保有する株式会社アジャイルの全株式を譲渡したことに伴い、株式会社アジャイルを連結の範囲から除外しております。

また、第1四半期会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社ワイズインテグレーション及び株式会社スクランブルは、当社の連結子会社である株式会社サニーサイドアップを吸収合併存続会社とする吸収合併が行われたことにより消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年7月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-------------------|-----------------|--------------|-----------------|------------|--------------|--------------------------------|
| | ブランドコミュニケーション事業 | フードブランディング事業 | ビジネスディベロップメント事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 9,191,940 | 1,361,026 | 275,140 | 10,828,107 | - | 10,828,107 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 52,310 | 1,602 | 14,190 | 68,103 | △68,103 | - |
| 計 | 9,244,250 | 1,362,629 | 289,331 | 10,896,211 | △68,103 | 10,828,107 |
| セグメント利益 | 1,228,858 | 19,539 | 22,120 | 1,270,518 | △418,619 | 851,899 |

(注) 1. セグメント利益の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 |
|------------|--------------|
| セグメント間取引消去 | △300,385 |
| 全社費用(注) | △118,233 |
| 合計 | △418,619 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2023年7月1日至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|---------------------------|-----------------|--------------|-----------------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | ブランドコミュニケーション事業 | フードブランディング事業 | ビジネスディベロップメント事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 7,444,271 | 1,648,284 | 86,925 | 9,179,480 | - | 9,179,480 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | 14,213 | 2,025 | 1,760 | 17,998 | △17,998 | - |
| 計 | 7,458,484 | 1,650,310 | 88,685 | 9,197,479 | △17,998 | 9,179,480 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 1,463,374 | 72,275 | △3,149 | 1,532,499 | △534,773 | 997,726 |

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:千円)

| | 当第2四半期連結累計期間 |
|------------|--------------|
| セグメント間取引消去 | △9,804 |
| 全社費用(注) | △524,969 |
| 合計 | △534,773 |

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

- セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは2023年5月19日に公表した中長期経営方針「成長に向けた戦略方針」において、基幹事業を「ブランドコミュニケーション事業」と再定義しております。第1四半期連結会計期間より、(株)サニーサイドアップを存続会社とする連結子会社間の吸収合併を契機に、経営管理区分の見直しを行い、従来、「マーケティング&コミュニケーション事業」及び「セールスアクティベーション事業」に区分されていた事業を「ブランドコミュニケーション事業」に変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づいて作成したものを開示しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 合計 |
|---------------|-----------------|--------------|-----------------|------------|
| | ブランドコミュニケーション事業 | フードブランディング事業 | ビジネスディベロップメント事業 | |
| 日本 | 8,875,755 | 1,072,010 | 267,340 | 10,215,107 |
| アジア | 186,085 | 289,015 | 7,800 | 482,901 |
| 米国 | 87,983 | — | — | 87,983 |
| 欧州 | 42,115 | — | — | 42,115 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 9,191,940 | 1,361,026 | 275,140 | 10,828,107 |
| 外部顧客への売上高 | 9,191,940 | 1,361,026 | 275,140 | 10,828,107 |

当第2四半期連結累計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 合計 |
|---------------|-----------------|--------------|-----------------|-----------|
| | ブランドコミュニケーション事業 | フードブランディング事業 | ビジネスディベロップメント事業 | |
| 日本 | 6,978,282 | 1,357,411 | 86,925 | 8,422,618 |
| アジア | 72,122 | 290,873 | — | 362,996 |
| 米国 | 321,865 | — | — | 321,865 |
| 欧州 | 72,000 | — | — | 72,000 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 7,444,271 | 1,648,284 | 86,925 | 9,179,480 |
| 外部顧客への売上高 | 7,444,271 | 1,648,284 | 86,925 | 9,179,480 |

(注) 第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。なお、前第2四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づいて作成したものを開示しております。